

テクノロジーでリハビリを楽しく 超高齢化社会が抱える問題解決に貢献

メディカルヘルスケア分野におけるソフトウェア・システムの研究開発や製造、販売を行うヘルステック企業。MR(複合現実)技術を活用したリハビリテーション治療システムを関西医科大学と共同研究している。現実世界でゴーグル越しにCGのトレーニングメニューを投影させることにより、日常生活に近い三次元空間でのリハビリが可能。高いリハビリ効果が期待できる。現在はトレーニングアプリ「リハまる」を医療現場等に提供中。

●所在地	大阪府大阪市北区梅田1-1-3 大阪駅前第3ビル23階
●電話/FAX	06-6343-8450/06-6343-8460
●URL	http://rehamaru.jp/
●代表者	代表取締役 杉山 崇

●設立	2005年
●資本金	300万円
●従業員数	6人



ゲームの要素を取入れた楽しいリハビリ「リハまる」を開発

高次脳機能障害(言語や記憶、注意、情報といった認知機能に起こる障害)や認知症のリハビリトレーニングのためのソリューションを関西医科大学と連携して開発。ゴーグル越しに3D CGを投影することで、より実践的なリハビリを可能としている。また、リハビリのコンテンツにインタラクティブ性を持たせたり、難易度を変更できたりするなど、同社がこれまでゲーム制作で培ってきたノウハウを活用。楽しくリハビリトレーニングを続けるための工夫がなされている。



MR技術を活用した「リハまる」アプリ

医療・介護現場の業務を大幅に軽減する新しいリハビリ手法

従来の紙と鉛筆でのリハビリでは、患者の様子を常に観察する必要があった。新たに開発したゴーグル型デバイスでは、視線や行動履歴が自動記録・採点されるため、リハビリ実施中にスタッフは別の業務を実施できる。また、自動化により準備から採点、評価、片づけまでの作業時間を大幅に短縮。なかには、作業時間が18分から3分へ短縮された事例もあるなど、リハビリ現場の業務効率化につながっている。人手不足が深刻な医療・介護業界の生産性向上のニーズを満たす新たなリハビリの手法を提供している。



自動記録・採点による業務効率化

理学療法士や作業療法士など多様な人材を有効活用

アワードでの受賞歴や学会での発表を通じて、理学療法士や作業療法士という医療・福祉系の資格を有する人材2名が同社の事業目的や理念に共感し入社。従来からの事業であるゲーム開発の技術やノウハウと、医療・福祉系の専門知識を融合させることで、リハビリの企画提案からサービス開発までスピーディにワンストップで行うことが可能となった。また、従業員のなかには、家庭の事情により在宅で働くエンジニアもいる。それぞれの事情に配慮したうえで、専門知識や技術ノウハウを活用し研究開発に取り組んでいる。



サービス開発の様子